

▲▽海の道▲▽ 八幡浜～別府航路①

れいめい丸に乗船 八幡浜港～別府港

■八幡浜

八幡浜は愛媛県の南西部に位置し、西日本有数の魚市場を有し、日本一と称されるみかんの産地として知られています。明治時代には、鉱業・海運業・製糸・紡績業など、四国のマンチェスターと称されたほど産業が興り、四国で一番早く電燈が灯ったのも、愛媛県下で最初の銀行が開業したのもこの地でした。

■宇和島運輸株式会社

南予地方の経済発展のため明治1年2月1日に宇和島運輸会社が設立されました。翌年、宇和島・大阪航路を開設し、以来、事業規模を拡大、明治10年に鋼船第十一宇和島丸を建造、大正時代には遠洋大型貨物船3隻を山下汽船に貸与するなど順調な経営を続け、昭和6年には3隻の船舶を所有していました。

戦後、大部分の船舶は戦禍により喪失、又は連合軍に接収されましたが、昭和28年にあかつき丸を含め4隻の返還を受けて、宇和島・別府航路を再開し、平成2年には創業地である宇和島寄港から、アクセスで利便性の良い八幡浜港を母港としました。初代「あかつき丸」は、昭和11年に建造され昭和2年に引退するまで、人の心に深く記憶され愛された船でした。その船名を受け継いだ「あかつき丸」が八幡浜・別府航路に就航し、1日3往復の運航を2014年6月より開始しました。

八幡浜が「伊予の大阪」と言われるほどの繁栄を誇ったのは、地の利を生かした海運業の発達もその一因であり、宇和島運輸はその一翼を担い現在に至っています。

■八幡浜・別府航路

別府は大分県の東部のほぼ中央に位置し、温泉が市内各地で演出する全国的に知られる国際観光温泉文化都市です。明治時代に入り、別府港が完成し大阪との航路が結ばれたことにより、次第に人々が集まり発展しましたが、昭和初期に別府観光の父と言われる宇和島出身の油屋熊八氏により別府温泉の名は全国へと広まりました。「山は富士 海は瀬戸内 湯は別府」というキャッチコピーを用い、全国初の女性バスガイドの案内で別府地獄をめぐる遊覧バスを運行し、別府は人気の観光地となりました。宇和島運輸も明治8年の航路開設以来、約138年にわたり、多くの観光客に利用されています。

「海員だより」